

表現する意欲を高める援助の工夫 ～絵本との関わりを通して～

那覇市立小禄南幼稚園教諭 高良 真理子

テーマ設定の理由

近年、核家族化や少子化が進み、幼児を取り巻く生活環境も大きく変化してきている。その様な中で人間関係が希薄化し、コミュニケーションの不足や自分をうまく表現することが苦手な幼児が増えてきたように思える。表現には身体による表現、言葉による表現、造形による表現、描く表現、音楽による表現など様々な表現が考えられるが、いずれも幼児にとって欠くことのできないものであり、多様な表現を豊かに体験することは大切なことだと考える。

幼稚園教育要領領域「表現」において「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」と記され、幼児の感じたり、考えたり、イメージを広げたりする経験を積み重ねて自分なりに表現することの必要性が強調されている。また、領域「言葉」の内容の取り扱い「(2)絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。」とあり、絵本の有効性について述べている。

このように絵本は幼児にとって身近な環境であり、想像の世界へと導いてくれる楽しい友といえる。また、絵本は個々の幼児の楽しみ方でお話の世界に入ることができ、生活や遊びと結びつけながら、さらにイメージを広げることもできる。

本学級は、明るく活発な幼児が多く、友達同士ブロックで恐竜を作ったり、車輪付き飛行機を作ったりして遊んでいる姿が見られる。その反面、絵本の活用が十分でなかったり、絵を描いたり、作ったりする等の表現活動に苦手意識を持ち、なかなか取り組めない幼児も見られる。

今までの保育を振り返った時、幼児がしたこと、見たことや聞いたこと、感じたこと等の表現を読みとったり、受け止めていただけるか、表現する意欲を高めるための援助の工夫をしていただけるかと反省する。

そこで本研究では、幼児の日常生活の中で身近な環境であり、イメージを豊かにし様々な表現を楽しむことができる絵本との関わりを通して、表現する意欲を高めていきたい。そのため、絵本への興味・関心や表現する意欲を高めるための環境構成を工夫したり、幼児の思いを受け止めたり、自分なりの方法で様々な表現活動ができるような援助の工夫をしたいと考え、本テーマを設定した。

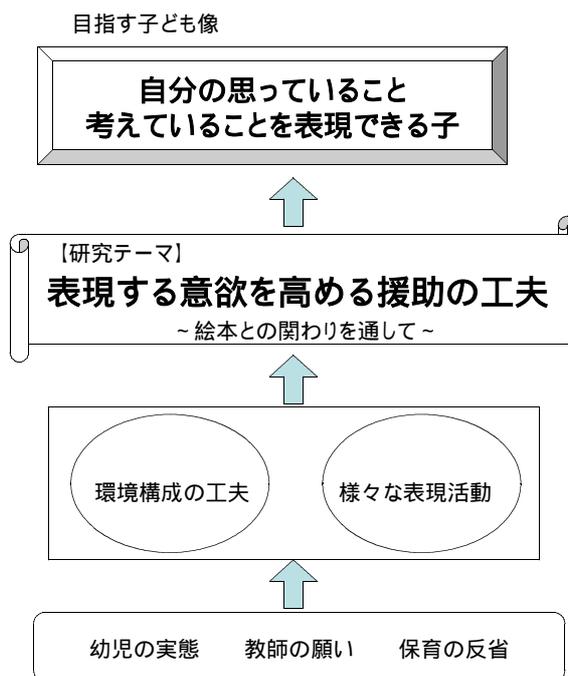
研究目標

表現する意欲を高めるために、絵本との関わりを通して、自分なりに表現する楽しさを味わわせる援助の工夫について研究する。

研究仮説

絵本に対する興味・関心を高めたり，自分なりの表現活動ができるような環境を工夫したり，様々な表現活動を取り入れたりすることにより，表現する意欲が高まるであろう。

研究構想図



研究内容

1 表現する意欲

豊かな感性や自己を表現する意欲は，幼児期においては，自然や人など身近な環境とかがかわる中で，自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられる。したがって，幼稚園教育において，日常生活の中で出会う様々な事物や事象，文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し合うことを通して，豊かな感性を育てるようにすることが大切であるといわれている。

幼稚園教育要領の領域「表現」の内容の取り扱いに「(2)幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので，教師はそのような表現を受容し，幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて幼児が生活の中で，幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること」とある。幼児期の発達段階を踏まえ，幼児らしい様々な表現を楽しむことができるように，幼児の思いを受け止め，援助していくことが重要である。

また，様々な材料や素材を揃えたりして自己表現ができるように援助し，幼児の表現する意欲を満足させながら，作ったものを遊びに取り入れたり，飾ったりすることによって，表現する喜びが味わえるようにすることも大切だと考える。

(1) 自分なりの表現とは

幼稚園教育要領平成元年の領域「表現」のねらい「(2)感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。」が平成10年に「(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」と改訂された。幼児期は、感じ考える心が活発に働き、イメージを豊かに発展・展開していくことに特徴があるので、表現の手法よりも自分なりの方法で表現させ、楽しませることを大切にしなければならないということである。「自分なり」とは、その子自身の思いをその子らしく表現をすることだと考える。

具体的には、自分に合った表現方法を選んで表現する 自分で感じたり考えたりしたことを思いのままに表現する 自分の表現と同じ表現に出会って共感し自信をもったり、あるいは自分の表現と違う表現に出会ってそれを受け止め受け入れることができることである。

幼児は、自分なりに表現し、それが受容され、表現しようとする意欲が認められることの積み重ねを通して、次第に様々な表現を楽しむようになる。そのため、幼児が自分なりに表現できるような援助の工夫をすることが重要である。

(2) 表現を総合的に取り扱うこと

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容の中で「各領域に示すねらいは幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は幼児の環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。」と明記されている。

幼児は本来、様々な面が総合的に育っていくという特徴をもっているため、領域は単独に指導するのではなく、相互に関連性をもたせながら幼稚園生活の全体を通して、様々な体験を積み重ねていく中で行われることが重要である。

表1にあるように、ねらい及び内容の関連を踏まえ、幼稚園の生活全体を通して相互に関連性をもたせ、様々な体験を積み重ねる中で表現する意欲を高めていきたい。

表1 関連する領域

領域	幼稚園教育要領の各領域のねらい及び内容
人間関係	内容(1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 内容(5)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 内容(6)友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
環境	ねらい(1)身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 ねらい(2)身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
言葉	ねらい(1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ねらい(2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 内容(2)したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。 内容(8)いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 内容(9)絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。
表現	内容(1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりする。 内容(2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 内容(3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 内容(4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。 内容(5)いろいろな材料に親しみ、工夫して遊ぶ。 内容(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。 内容(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

2 表現する意欲を高めるためのプロセス

表現する意欲を高め自分なりに表現できるようにするためのプロセスとして、「読み聞かせ」「イメージを広げる」「自分なりの表現をする」「友達と表現活動を楽しみ互いの表現を認め合う」を設定する。

まず、絵本に対して興味・関心を高めるために、幼児の興味・関心に沿った絵本、季節感や園の行事等に合わせた絵本を揃えたり、その内容を知らせたり、読みたくなるような環境構成を行う。そして、幼児の希望する絵本や教師の意図する絵本を読み聞かせする。

次に、絵本に対してイメージを広げる段階においては、それぞれが感じたことや考えたことを出し合い、それを教師が受け止め、その良さを認めながら他の幼児へと広げたりする。

自分なりの表現をする段階においては、個々の幼児が自分のイメージを表現できるようにしたり、表現していく中でイメージが広がるように様々な材料を揃えたり、のびのびと表現できるような環境を構成する。また、それぞれの表現の良さを認め、励まし、個に応じた援助を行う。

友達と表現活動を楽しみ認め合う段階においては、共同制作に取り組みせ、それぞれのペースに合わせた表現活動が行われるようにする。みんなで作る楽しさと表現の良さを認め合いながら達成感を味わわせると共に、大きな作品を仕上げた感動を共有させたい。その喜びから表現する意欲は更に高まるものとする。

幼稚園教育要領総則の中で、「(3)幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。」とあるように、教師は多方面から幼児の姿を捉え、一人一人の特性や発達に応じた援助を行う必要がある。

幼児がイメージしたことを自分なりに表現できるようにするため、プロセスを工夫すると共に、幼児の思いをありのままに受け止め、共感したり、励ましたり、温かく見守ったりする。そして、なかなか取り組むことができない幼児に対しては、不安を取り除いたり、一緒に描いたりして個に応じた援助を行う。

3 表現する意欲と絵本の活用

幼児は音楽を聴いて歌ったり、踊ったり、絵本を見たり、音楽や言葉などに合わせて身体を動かす、何かになりきって楽しんだりする。これらの表現活動の中で、内面に蓄えられた様々な事象や情景を思い浮かべ、それらを新しく組み立てながら、想像の世界を楽しんでいるといわれている。

表現する意欲は身近な環境と関わる中で、自分なりに表現し、それが認められ充実感を味わうことによって育つものと考えられる。

そこで、身近な環境でもある絵本との関わりを通して表現する意欲を高めていきたい。幼児期は、想像力が豊かでお話の世界を一番楽しめる時期といわれる。そのような時期にたくさんの絵本と豊かに関わることは、感性を磨き、想像力や表現力を豊かにする。そこで以下の点を踏まえ、絵本を活用していく。

(1) 幼児期に絵本と関わる良さ

幼児期に絵本と関わることは次のような良さがある。

嬉しいこと、悲しいこと等、感じる心や情操を豊かにすることができる。

絵本や物語と自分の経験と重ね合わせて、再認識し合う喜びを味わう。

自分たちの知らない世界を知ることができ、発見していく喜びを味わう。

絵本を通して、教師や友達と絵本の楽しさを共有することができる。
登場人物になりきることで、想像上の世界に思いを巡らせることができる。
絵本や図鑑を通して、調べたりする中で知識欲が刺激され、調べる楽しさを味わうことができる。

(2) 絵本の選択

日本子どもの本研究会絵本研究部は、絵本を選ぶ観点を次のようにまとめている。

(1988年2月第二試案)

とりあげた主題が明確で、作者が想定する子どもの発達段階に適したものであること。

全体がその主題に沿って整理統一されていること。

絵の流れや文章が明快で、子どもに理解できるものであること。

色調・線描がいきいきとして、子どもの想像力やイメージを豊かにし、自然な感動を呼ぶものであること。

洗礼された美しい日本語が使われ、絵と文がよく調和していて、違和感がないこと。

本づくりの細部まで、子どもへの深い理解と愛情が感じられるものであること。

上述の絵本の選択の観点や園の教育計画及び幼児の興味・関心を踏まえ、次のような絵本を選択した。

「ぼくのくれよん」作者 長新太 出版社 講談社

ダイナミックなクレヨン画で描かれ楽しい話が繰り広げられている絵本である。この絵本を通して、赤・青・黄色の三原色から受けたイメージを広げることにより、感じたことや考えたことを自分なりに描いたりする楽しさが味わえる。

「クレリア」作者 マイケル・グレイニエツ 訳 ほそのあやこ 出版社 セーラー出版社
幼児にとって興味・関心の高い虫の話でもある。クレリアを描いたり、作ったりするを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする楽しさを味わうことができる。

「スイミー」作者 レオ＝レオニ 訳 谷川俊太郎 出版社 好学社

コラージュで描かれたダイナミックで繊細な絵から海の世界のさざめきが伝わってきそうな美しい絵本である。小さな魚が力を合わせて大きな魚に立ち向かう楽しい話であり、スイミーや魚たちになりきる楽しさを味わったり、簡単なリズム楽器を使って身体表現も楽しむことができる。

「にじいろのさかな」作者 マーカス・フィスター 訳 谷川俊太郎 出版社 講談社

光の反射でうろこがキラキラ光る美しい魚の絵本である。水遊びやプールで水の冷たさと開放感を味わっている時期に、「にじいろのさかな」の絵本を取り上げることは、水の中を楽しく泳ぎ回る魚と自分の生活とを重ね合わせて、心地よさを感じイメージを豊かにすると考える。また、うろこの美しさに表現意欲もかき立てられるものと考えられる。

(3) 絵本の活用の工夫

絵本	ねらい	幼児の活動	材料	援助の工夫
「ぼくのくれよん」 【作者】 長新太 【出版社】 講談社	赤・青・黄色の三原色の中から好きな色を一色選び、色から受けたイメージを基に表現する。	三原色の中から好きな一色のみを使って色からイメージしたものを描いてみる。	クレヨン三原色の中の好きな色1本	三原色の特徴を伝えイメージを広げ、自分なりの表現ができるようにする。
	三色を使い、色へのイ	三原色を使ってイメ	クレヨン3本	幼児の発想に気付かせる

	イメージを広げ自分なりに表現してみる。	イメージしたものを描く。		ために、前回子ども達がイメージしたものをパネルシアターで紹介し、色へのイメージを広げ、自分なりの表現ができるようにする。
「クレリア」 【作者】 マイケル・ グレインエツ	絵本から感じ取った「クレリア」を自分なりに表現してみる。	色画用紙を使って「クレリア」を作る。	色画用紙 クレヨン はさみ のり	「たずねむしクレリア」のポスターを作って掲示し、イメージを膨らませて楽しく取り組めるようにする。
【訳】 ほそのあやこ 【出版社】 セラー出版社	「クレリア」へのイメージを広げ、イメージに合った材料を選んで、自分なりの「クレリア」を表現する。	様々な材料を使って「クレリア」やその家等を作る。	色画用紙 様々な箱 発砲スチロール、はさみ トイレットペーパーの芯 のり 毛糸	いろいろな材料を揃えることで、表現の幅を持たせ、表現しようとする意欲が持てるようにする。作ったもので楽しく遊べるように草むらを付けたり、展示の工夫をする。
「スイミー」 【作者】 レオ＝レオニ 【訳】 谷川俊太郎 【出版社】 好学社	絵本からイメージしたことを音や動作で表現する。	イメージしたことを音や動きで表現する。	タンパリン ピアノ、太鼓	「スイミー」に出てくる大きな魚やスイミー、スイミーの仲間、伊勢エビ等自分が興味・関心のあるものになり、友達と一緒に表現する楽しさを味わわせるために子ども達の動きに合わせて、ピアノを弾く。
「にじいなさかな」 【作者】 マーカス・ フィスター 【訳】 谷川俊太郎 【出版社】 講談社	「にじいろのさかな」の絵本を見て、それぞれがイメージする海の世界を友達と一緒に作る楽しさを味わう。	それぞれのイメージを基に大きな海をみんなで描く。	全紙5枚 スタンプ 絵の具	海や水に対するイメージを広げ、みんなで色塗りをする事で、共同制作が楽しいと思えるようにする。
	「にじいろのさかな」からイメージした魚等を描いたり、作ったりすることを楽しむ。作ったものを遊びに使ったり、飾ったりする。	絵本からイメージした魚を自分なりに表現する。	クレヨン ストロー 画用紙、ゴム 割り箸、厚紙 はさみ 青い布	「にじいろのさかな」からそれぞれがイメージしたものを認め、受容し、表現することを通して楽しいと感じさせ、それを遊びに生かせるように人形劇舞台に海のイメージの青い布を取り付ける。
	「にじいろのさかな」の世界のイメージを言葉や動きで自分なりに表現する楽しさを味わう。	「にじいろのさかな」の世界に生き物をイメージして、言葉や身体を使って表現する。	カセットデッキ、CD 青い布 自分で作ったお面等	友達と表現遊びが、のびのびと表現できるようにイメージに合わせた曲を選曲する。 友達と表現することによって、感動を共有し、伝え合うことができるように場を設ける。
	「にじいろのさかな」を読んでイメージを膨ら	みんなで思い思いに「にじいろのさかな」	色画用紙 ホイルカラー	イメージが広げられるように言葉かけをしたり、一

	らませ自分なりの「にじいろのさかな」を作る。共同制作を楽しんだり、感動したことを伝え合ったりする。	の壁面を作る。	包装紙、のり画用紙、千代紙はさみ、折り紙両面テープボンド、	一人の表現を認め受容し、楽しんで表現ができるように材料、場の設定を整える。
--	---	---------	-------------------------------	---------------------------------------

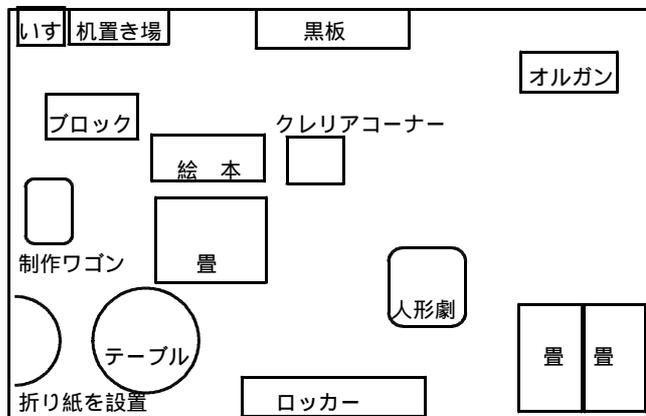
4 表現意欲を高める環境構成の工夫

幼児期の特性を踏まえ、幼児が自然環境・物的環境・空間的環境・人的環境と出会い、関わっていくことを適切に援助しなければならない。

本研究では、絵本に対して興味・関心が高まるような環境構成の工夫を行い、絵本との関わりを通して様々な表現活動を展開することにより、表現する意欲を高めようと考えた。

絵本の活用を通して、表現する意欲を高めるような絵本の環境構成、様々な表現活動を取り入れた環境構成の工夫を以下のように行う。

(1) 絵本に対する興味・関心を高める環境構成の工夫



幼児がより多く関わるように、壁際にあった絵本コーナーを移動し、落ち着いてくつろいだ雰囲気にするために、畳を設置した。

絵本コーナーに絵本を増冊し、自然絵本(動物・昆虫・植物)、物語絵本、月刊絵本、科学絵本、季節の絵本、行事的絵本等に分類して、見やすいように表示した。

図1 環境構想図

ままごとコーナーを移動し、絵本コーナー側に制作ワゴンや折り紙コーナーを設置した。そして空き箱や材料を揃え、絵本を活用して思いついた物や考えた物をすぐ作ったり、描いたりできるようにした。

折り紙コーナーに半円テーブルを設置し、折り紙の絵本や工作絵本、制作絵本等を並べ、絵本の活用が広がるようにした。

クレリアコーナーにクレリアの絵本と共に子ども達で作ったクレリアやポスター、そしてそれに関係する物を展示し、興味・関心を高めイメージが広がるようにした。

(2) 様々な表現活動が行える環境構成の工夫

手触りのある紙、光沢のある紙、大きさや形の異なる空き箱、割り箸、ストロー、発砲スチロール、トイレットペーパーの芯、毛糸、空き容器等いろいろな素材や材料を準備し、自分なりの表現ができるようにする。

人形劇コーナー、クレリアコーナー、ペープサートコーナー等、遊びに発展できるような教室の場の設定の工夫をする。

プレイルームを活用して楽器を鳴らしたり叩いたり、踊ったり、身体を使って表現したり、自由に動きまわったりできるようにする。

「にじいろのさかな」の大型絵本の読み聞かせをしてよりイメージを広げる。

以上の環境構成を行い、自分の思ったことや考えたことを描いたり、作ったり、身体で

表したり，音で表したりすることで表現する意欲が高まると思われる。

検証保育

1 題材観

絵本は幼児にとって身近なものであり，昆虫や植物の絵本から擬人化されたお話等様々なジャンルがあり，幼児の興味・関心を引きつけることができる。幼児個々の特性や興味・関心を踏まえたり，季節や園の行事等を考慮しながら絵本を紹介すれば，その内容と自分の経験を結び付け，想像を巡らせたりする楽しさを味わい，次第に豊かなイメージを持ち，それを何らかの形で表そうとすると考える。

夏真っ盛りのこの時期，水遊びやプールで水の冷たさと開放感を味わっている幼児達に，「にじいろのさかな」の絵本を取り上げることは，海の中を楽しく遊び回る魚と自分を重ね合わせ，イメージが膨らみ，自分なりの表現する意欲が湧くものと考えられる。

2 幼児観

本学級は明るく活発な幼児が多い。これまで，「ぼくのくれよん」や「クレリア」「スイミー」を通して，表現活動を楽しむ子が増えてきている。特にクレリアやその家，乗り物を作ることに興味・関心を示しイメージを膨らませ，自分なりの表現で様々なものを作り楽しんでいる姿が見られた。

経験したことや興味・関心のあることに対して，イメージを膨らませ遊びを工夫し展開していくことができる幼児がいる。しかし，中には表現活動に抵抗を示したり，集団で活動することを不安がる幼児も見られる。

そこで今回は，「にじいろのさかな」を通して共同制作に取り組みせ，みんなで表現活動をすることを楽しめるようにしたい。

その中で，自分の思っていることや考えていることを自分なりに表現することによって，自分の思いを友達に伝えたり，共感することで自分と同じ思いをもっている幼児に出会い自分に自信を持ったり，友達と一緒に表現遊びを楽しむことができる幼児に育てたい。

3 保育観

本時は，「自分なりに表現する」「互いの表現を認め合う」というプロセスを中心に展開する。

「にじいろのさかな」の絵本の世界を思い思いにイメージを広げ，自分で考えた「にじいろのさかな」を，自分で選んだ材料で自分なりに表現することにより，表現する充実感を味わわせる。また，友達と一緒に表現することを通して共感したり，感動を共有させたりする。自分の表現が他者に認められたり，受け止められたりする体験の中で表現する喜びを感じ，表現への意欲を高めていきたい。

環境構成の工夫として，本時ではプレイルームの舞台の壁にみんなで色を塗った海(全紙)を貼っておく。海を貼ることによってよりイメージが湧き，そこに泳がせる魚等を作りたいという意欲も湧くものと思われる。

また，自分なりにイメージした「にじいろのさかな」を思い描いたとおりに表現できるように，いろいろな素材を豊富に揃え，自分なりの表現ができるように援助していきたい。

4 検証保育指導案

(1) 保育仮説

「にじいろのさかな」の世界を友達と共同制作する中で、感動を共有したり、互いの良さを伝え合ったりすることにより、自分なりに表現する楽しさを味わうであろう。

(2) 保育の視点

「にじいろのさかな」の世界を自分なりに意欲的に表現しているか。

教師は表現する意欲を高めるためにどのように援助しているか。

共同制作の中で、楽しんだり、感動したことを伝え合えるような環境構成の工夫や援助をどのように行ったか。

(3) ねらい

絵本「にじいろのさかな」からイメージを膨らませ、自分なりの「にじいろのさかな」を作る。

共同制作を楽しんだり、感動したことを伝え合ったりする。

(4) 内容

いろいろな材料に親しむ。

自分なりのイメージした「にじいろのさかな」や海の生き物を作り、壁面を構成する。感じたことや考えたこと等を伝え合う。

生活の流れ時間	幼児の活動	教師の援助 共感・見守る・再構成・共同・安全への配慮等
教室へ 8:30 プレイルーム へ移動 8:40	朝の清掃用具を片づける。 教室に集まる。 テーブルやいすをプレイルームへ運ぶ 各グループごとに席をつくる。 個人用にはさみやのり、クレヨンを用意する。	言葉かけをしながら一緒に清掃用具を片づける。 安全にテーブルやいすを運ぶように声をかけをする 意欲的に取り組めるように、いろいろな材料や用具を揃えておく。 材料 折り紙、カラーホイル、包装紙、画用紙 色画用紙、千代紙 用具 ボンド、両面テープ、トレー、布巾 用具のための予備のテーブルを用意しておく。
表現活動 9:00	「にじいろのさかな」の絵本を見て海の世界をイメージしてみる。 今日の表現活動の話聞く。 いろいろな材料があることを知る。 時間の配分を知る。 自分の好きな材料を選び、自分なりに工夫して「にじいろのさかな」を作る。 気の合う友達に互いに見せ合う。	「にじいろのさかなは、どんな魚だと思う？」と投げかけをしたり、いろいろな材料をホワイトボードへ提示してイメージを膨らませる。 模型の時計を使って 10 時まで制作ができることを知らせ、活動の見通しを持たせる。 個人差に配慮しながら、個々が「作るのが楽しい」「こんなものが作りたい」と思えるような言葉かけをしたり、それぞれの表現を認めたり、褒めたり、励ましたりする。 魚の形に描けなくてもそれぞれの良さを認めたり、形にこだわらなくてもいいように手助けをする。
集まる 10:00	今日の表現活動について話し合う。 「わぁ～すごい!」「いろいろな魚がいる」「ちゃんの手」「この色きれい」等のように色の良さや形の面白さ、材料を工夫して使っている、いろいろな大きさがあ	壁面の正面に集まり、今日の共同制作を通して、いろいろな魚や海の生き物や「にじいろのさかな」があることに気づき、友達の子作品の良さに気付いたり、互いに認め合えるようにする。 楽しかったこと、気付いたこと、思ったこと、工夫したことを互いに伝え合い、またやってみたいと思

	る, いろいろな向きに貼り付けている等に気付く。	えるようにする。
片づけ 10:20 教室へ	使った用具を片づけ, 身の回りに落ちている紙くずを拾う。 テーブルやいすを教室に運ぶ。	言葉かけをしながら, 一緒に片づける。 一緒にテーブルを教室に運ぶ。
反省と 評価	自分なりの「にじいろのさかな」を表現できていたか。 感じたことや考えたことを伝え合うことができたか。 大きな作品をみんなで取り組んだ感動を共有できたか。	

結果と考察

自分なりの表現ができるよう様々な材料を揃えたりのびのび表現できる環境の工夫



写真1 材料を選ぶ幼児



写真2 親子にじいろのさかな



写真3 壁面の前で

【結果】

写真1にあるように様々な材料を揃え, 使いたい時に使えるように環境構成をしたことで, 自分のイメージに合う材料を選んだり, 材料の材質からイメージを膨らませたりして表現活動を行った。

自分なりの表現で「にじいろのくらげ」「光るたこ」「にじいろかめ」「帽子いか」「せみさかな」「双子サメ」等の作品がでてきた。

写真3にあるように自分なりの作品を自分の好きな場所に貼ったり, 好きな友達の側に貼ったりする姿が見られた。

絵本のコーナー近くに制作コーナーや人形劇舞台を設置し, 人形劇舞台に海をイメージして青い布を取り付けると, 自分達で作ったペープサートで「スイミー」や「にじいろのさかな」を演じて楽しむようになった。

【考察】

様々な材料をいつでも取り出して使えるように環境構成を工夫したことで, 自分のイメージに合わせて材料を選んだり, 材料の光沢や手触りから更にイメージを膨らませたりすることができた。

「1匹ではかわいそう」とお母さんを付け加え, 写真2のように2匹のにじいろのさかなを作ったり, せみの形に似ているから「せみさかな」とネーミングしたり, 「にじいろくらげ」を作ったり, 自分なりの表現を楽しんでいる。このようにイメージを膨らませるような様々な材料を揃え, わくわくしながら活動ができるように環境を整えることは, 大切なことと思われる。

自分なりに表現した作品を自由に貼れる海を提示したことで, 想像力を働かせながら好き

な空間を見つけて貼ったり、「もっと作りたい!」「あそこに一緒に泳がせたい」という思いから、表現を仲立ちにして友達同士の関係が深まり、表現を楽しむ雰囲気味わえたのではないかと考える。

しかし、教師の固定観念から材料を魚本体部分とうろこに使える部分とに分けて指示したため、幼児の発想を妨げてしまう結果となった。教師自身が豊かな発想をもって応じることが幼児の表現する意欲をより高めることにつながっていくと感じた。

様々な表現活動、描く、作る表現活動、身体による表現活動、音で表す表現活動、遊びに発展する表現活動、共同制作による表現活動を取り入れる

【結果】

「ぼくのくれよん」では、三原色から受けたイメージを基に青色から海を連想して魚や船を描いたり、好きなものを書いて楽しむ姿が見られた。

「クレリア」では、様々な材料を使って、自分の考えた「クレリア」を作ったり、クレリアの家や乗り物、クレリアが遊ぶジャングルジム、ブランコとイメージを広げて様々なものを作り、友達に見せたり、作品を使って遊んだり、楽しんだりしていた。

「スイミー」では、身振りや動作でスイミーやスイミーの仲間、伊勢エビ、いそぎんちゃく、大きな魚、鯨等を表現していた。タンバリンや太鼓を叩いて音の響きを楽しんでいる幼児もいた。

表現することに対して抵抗を示していた幼児も様々な表現活動を取り入れていく中で興味を示し、笑顔で参加するようになった。

「にじいろのさかな」では、写真4で見られるように、



写真4 にじいろのさかな



写真5 ペープサート

のように、青い布を波に見立て魚のお面をつけて、波のトンネルを魚になりきってくぐったり、潜ったりする姿が見られた。

写真5のようにそれぞれがイメージしたものをペープサートにしてその後、表現遊びにつなげたり、お面を作って海の世界の生き物を音や身体で表現し、自分なりの表現を楽しんでいた。

【考察】

「ぼくのくれよん」の絵本を活用し、最初はクレヨン1本だけを使い単純な方法で描いたり、色からイメージを広げて好きなものを描くことで、抵抗なく表現活動を行うことができたと考える。

「クレリア」では、いろいろな材料を揃えたり、その子なりの表現を認めたことで、イメージを広げ「クレリア」の世界を作り上げることができた。そして、作った作品を使って遊

ぶ等、表現が広がった。

「スイミー」では、幼児の動きに合わせてピアノを弾いて楽しい雰囲気を出し、リズム表現を楽しませることにより、鯨やスイミーが登場すると幼児自ら楽器を叩いて友達の動きを音で表現する等、活動の広がりが出てきたと思われる。

「にじいろのさかな」では、海のイメージで活動できるように人形劇舞台に青い布を付け、作った「にじいろのさかな」や「スイミー」のペープサートを使ってお話を作ったり、遊んだりすることで表現活動を楽しみ、意欲的に取り組むことができたと考える。(写真5)

共同制作の形態をとったことで、友達に刺激を受け描きたくなったり、個人では味わえないダイナミックさを味わったり、教師や友達と感動を共有し合い、そこで感じたことを互いに伝え合う等の楽しさを味わったりすることで表現する意欲が高まったと思われる。

様々な表現活動を体験し、初めは、抵抗を感じていた幼児も絵本との関わりを積み重ね友達や教師にその表現が受け入れられたり、認められたりすることで、徐々に自分なりの表現を楽しむようになった。

実践において、幼児のありのままの表現を受容し、幼児の表現しようとする意欲を認め励まし、幼児が園生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるような工夫をしていくことが重要だと実感した。

研究の成果と課題

1 成果

絵本と触れ合う環境構成を行ったり、材料を揃え制作コーナー等の環境構成を工夫したりすることにより、絵本に触れる機会が増え、友達と一緒に絵本を見たり、制作活動を楽しんだりする等、表現意欲が高まってきた。

様々な表現活動を取り入れ、幼児のありのままの表現を受容することで、自分の思ったことや考えたことを自分なりの方法で表現するようになった。

2 課題

日々の保育の中で常に幼児理解を深め、環境にどのように関わっているのか見極め、楽しんで取り組めるような環境構成の工夫に努める。

学級経営において、幼児の発達段階に応じた絵本を活用し、計画的に表現活動を取り入れていく。

《主な参考文献》

文部省	「幼稚園教育要領解説書」	フレーベル館	1999
小田豊・神長美津子	「Q&A でわかる新・幼稚園教育要領」	ひかりのくに株式会社	2003
日本子どもの本研究会絵本研究部編	「えほん子どものための500冊」	一声社	2003